

中国語訳課題

○下記の和文を中国語に訳すこと。(様式自由。PC 作成可。)

その絵は板に油彩されており、下半分の木目のテーブルのように見える部分は彩色がなく、板材そのものが見えている。上半分で白く木目状に見えるのも、絵の具の下の木目を反映している。

右端に新羅土器 2 点が描かれている。

手前の高杯は、蓋を伴う 2 段交互透窓高杯で、高杯の脚部は端部でやや外に伸び、蓋は天井部が丸く、小さな倒脚形つまみをつける。6 世紀前葉から中葉にかけてのものであろう。

高杯の後方には壺があるが、上半が木の葉に隠されていて見えない。胴部は丸く、脚部は直線的に開いていて、脚端はやや丸くふくらみ気味である。5 世紀後半ごろのものであろう。ただ、透窓が大小交互に配置されているように見えるのは異様である。あるいは上下交互透窓を誤って描いたのであれば、やはり 5 世紀後半ごろといえるであろう。

このほか、左後方には須恵器の平瓶が描かれているが、やや小さめである。

中央にある漆塗の高杯を見ると、脚端がテーブルに乗っているように見えず、やや奇妙である。また、杯の上面の角度もおかしい。これは勾玉や果物などと漆塗高杯との間で構図が破綻しているからである。平瓶や勾玉、新羅土器の大きさが奇妙に見えることも併せて考え得ると、どうやらこの静物画は実景を描いたのではなく、写真などで見たいくつかの要素を 1 つの画面に表現したものと考えられる。

改めて新羅土器の部分を見ると、この推測を裏付ける証拠が見出される。新羅土器の高杯や壺の脚部には透窓が設けられており、透窓を通じて向こう側が見えるはずである。しかし快彦が描いた透窓は淡く青色が塗られており、透窓の先は見えない。もしや快彦はこれが透窓であると言う事実すら知らなかったのであろうか。やはり実物ではなく写真を参考に新羅土器を描いたと推測できる。

そうすると、台付壺の透窓が異例であることも解釈が可能になる。快彦の手にした写真では、2 段透窓の状況が観察しにくかったため、快彦なりの解釈で描いてしまったのではあるまいか。